

酪農文化祭に寄せて

畜産課

210日、20日の台風の凶日も無事に過ぎて史上最大の豊作が記録されるといわれていたが、突如超大型の伊勢湾台風でその通路に当たった愛知、三重県等はその傷痕も甚しかった。幸いなことに岡山県は地理的に恵まれている関係もあるが、被害も比較的軽微で今年も豊作を讃えることができる。

この豊穰の秋、作北の地、津山市で岡山県酪農文化祭が県、津山市の主催で10月20日から3日間極めて盛大に開催された。

これまで津山での共進会は雨がつきもののようにいわれていたのが、今回は農家の豊作の慶びと酪農文化祭への熱意が天に通じてか、珍らしく期間中秋ばれの好天気続きであった。又、丁度津山市の徳守神社の祭礼もあり、参観者の数もかつてない程の人出であった。

本県の酪農は近年すばらしく伸びていることは誠に慶ばしいことであり、最近の農林統計でも中国地区が全国的によい伸を示している。中国では岡山の乳牛数が最も確実に上昇線を描いている。何がこのような現れとなってきたか、美作集約酪農地域指定（29年からジャージー牛導入、30年指定）に加えて備中、旭東の2地域の指定もあり、これを転機として計画的に集中して乳牛を導入したことにもよるが、一方乳牛生産の伸びに対して適切なる市乳の消費拡大を図ったこと、その他種々の酪農対策が実施されたことと、農家の酪農改善への努力が払われたこと等によるものである。

今後も更に乳牛頭数の増加、1農家当りの密度等も高めてゆかなければならないが、農家としては①飼料作物の導入によって飼料の自給率の拡大②繁殖率の向上及び泌乳能力の向上③経営の合理化等に努力を願わねばならない。

①自給飼料は水田裏作、田畑転換、未利用地の高度利用によって濃厚飼料の給与を減らし飼料費の節減を計らなければならない。②本県は西南暖地の関係で夏季の受胎率も悪く又、繁殖障害牛も可成るのでこれ等の不良牛をなくすることに努めなければならない。

い。③乳牛の泌乳量はまだ低いのもっと泌乳量をあげ生産費を切り下げなければならない④酪農経営の経営拡大を計り飼育頭数も可能の範囲で増加し、管理労力の節減と危険分散を行う以外、施設費、その他償却費を減くする方向に進み、酪農の長期的な安定を図らなければならない。

今回の酪農文化祭の開催は、こういった事がらを農家の方々の胸の中に深く刻みこんでいただく意図と、試験研究機関であり、技術指導のよりどころである酪農試験場が完成したのでその内容を一人でも多くの方に見ていただく考えからでもあった。

第1会場は酪農試験場で施設の開放と各種の展示を公開し、第2会場では県下各地からの選抜された代表牛が勢揃いし立派な乳牛の祭典であった。その1頭1頭が酪農家の精根こめて作出された努力の結晶であり芸術品でもあった。審査には特別審査員としてホルスタイン登録協会の柘田博士、岡大の小松教授を煩わし厳正に行われた。その他各種の酪農にちなんだ協賛行事が取り行われた正に圧観というべきであった。

ともあれ今回の酪農文化祭が極めて有意義に且つ盛会裡に、将来の酪農発展を祝福して3日間にわたる祭典の幕を閉じたことは関係者一同心からの慶びであった。